

1. 調査報告概要表

作成日 2007年12月28日

【評価実施概要】

| | |
|---------------|------------------------------------|
| 事業所番号 | 1072400326 |
| 法人名 | 株式会社オギノ電子工業 |
| 事業所名 | グループホームハーモニー |
| 所在地 (電話番号) | 群馬県甘楽郡下仁田町馬山2495-(電 話)0274-60-3061 |
| 評価機関名 | サービス評価センターはあとらんど |
| 所在地 | 群馬県前橋市大友町2-29-5 |
| 訪問調査日 | 平成 19年 12月 6日 |

【情報提供票より】(19年11月1日 事業所記入)

(1)組織概要

| | |
|--------------------------|--------------|
| 開設年月日 | 平成 17年 7月 1日 |
| ユニット数 | 1 ユニット |
| 職員数 | 9 人 |
| 利用定員数計 | 9 人 |
| 常勤 5人, 非常勤 4人, 常勤換算 6.6人 | |

(2)建物概要

| | | |
|------|---------|---------|
| 建物形態 | 併設/単独 | 新築/改築 |
| 建物構造 | 木造平屋 造り | |
| | 1階建ての | 階 ~ 階部分 |

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|----------|----------------|--------|
| 家賃(平均月額) | 45,000 円 | その他の経費(月額) | 円 |
| 敷金 | 有(円) | 無 | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) | 有りの場合 償却の有無 | 有/無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり | | 1000 円 |

(4)利用者の概要(11月 1日現在)

| | | | | | |
|-------|--------|--------|--------|----|----|
| 利用者人数 | 9名 | 男性 | 1名 | 女性 | 8名 |
| 要介護1 | 3名 | 要介護2 | 3名 | | |
| 要介護3 | 2名 | 要介護4 | 1名 | | |
| 要介護5 | 名 | 要支援2 | 名 | | |
| 年齢 | 平均 86歳 | 最低 76歳 | 最高 94歳 | | |

(5)協力医療機関

| | |
|---------|---------------------------|
| 協力医療機関名 | 下仁田厚生病院 大沢クリニック ひらやなぎ歯科医院 |
|---------|---------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者が一人ひとり役割を持ち生活していけるように、管理者・職員が共に支援している。利用者のペースを大切にして規則などにとられないその人らしさを大切にしながら送れるような体制である。介護計画にはケアの内容が具体的に明示されており、各職員が同等のケアの質を確保して支援にあたっている。ホールから見える窓外の景色は絵画のようで、四季を居ながらにして感じ取ることが出来る。天井は高く明り取りが自然光を取り込んでいる。環境のよさが利用者に季節感を感じさせている。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|---|
| 重点項目① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>広報活動に関しては「ハーモニー便り」を発行予定(12月)。施設に関しては職員との話し合いにより今では3人体制の時は開錠している。緊急時の手当てでは、消防署との連携で研修を行った。継続的な研修に関しては、すでに管理者研修に2人参加している。周辺施設等の理解では、近所の保育園と交流したり、地域のドント焼きなどにも参加している。ホームの地域への還元では、中学生の職場体験などを受け入れている。</p> |
| | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員から意見を聞き、管理者が作成した。</p> |
| 重点項目② | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に一度開催されている。会議には利用者の家族も参加し、ホームの行事紹介などを行っている。また前年調査の改善点なども運営推進会議に取り上げ話し合いをしている。行政関係者の参加は無いが働きかけはしている。</p> |
| 重点項目③ | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時等に何かありませんかと話しかけ、積極的に苦情を受け入れようとしている。運営推進会議時にも家族から意見を出してもらえるように働きかけている。</p> |
| 重点項目④ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>代表者はこの地域で生まれて育った人なので地域との連携は自然の形でとれている。行政、企業、近隣等との情報交換も友人を介し協力が得やすい。隣組の活動などにも参加しており、お祭りの時は利用者も参加している。保育園、学校などとも交流がある。</p> |

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|---|------|--|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「笑顔あふれるグループホームを目指しています」をホームの理念として設立時より掲げている。 | ○ | 法人であるオギノ電子工業は、地域に40年の歴史のある会社で、当初より地域密着を根底に持った経営をしてきている。しかし事業所の理念の中にその思想は謳われていないので、理念に地域との関係性を加え作り上げて欲しい。 |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 管理者と職員は9時と16時の申し送り時に理念を確認している。又会議の時には理念についての話し合いをして、実践に反映させている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 自治会には加入していないが、地域の組活動に参加している。祭りの時などに寄付をしたり、行事にも参加している。代表者は地域に知人も多く学校や保育園等との交流もある。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 評価の結果は職員に目を通してもらい、職員の意見を取り入れている。運営推進会議にも議題として取り上げ、改善点を話し合ってもらった。今回の評価は管理者が作ったが意見は全員から聞いている。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月ごとに行っている。メンバーは民生委員・利用者家族・看護師・ケアマネ・管理者など、7名～8名である。行政に参加を働き掛けているが、今のところ参加は見合わせたいとの返事である。評価の結果は推進会議で報告している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|------|----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 町職員の運営推進会議への参加を要請しているが、実現していない。しかし代表者は町職員と関わりがあり、行き来をしながら管理者と共に働きかけの機会を作り、サービスの質の向上に努めている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 面会時に健康状態などの報告をしている。面会が多い人では月に8回くらい、少ない人でも月に1度はあり、その時に情報交換をしている。遠い人には電話で報告する事もある。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議に家族が参加し、会議の中で苦情は申し出てくださいと促している。苦情窓口も設置されている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 新規採用者には管理者と一緒に業務に入り、慣れるまで仕事を教えている。夜勤も1、2回は管理者が付いて一緒にしている。職員の異動も利用者に対しての影響を最小にとどめる努力をしている。家族等に対しては、面会時に説明をしている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 管理者・法人役員は研修に職員を参加させている。管理者研修にも参加している。法人役員も管理者も職員を研修に参加させたい気持ちを持っている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、そこでの研修に参加している。ブロックでの交流により情報交換を行って質の向上に努めている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 家族の方と共に施設を見学してもらったり、管理者が自宅や病院を訪問する等、お互いが状況を把握して、利用を始めてもらうようにしている。入居が決まっても不安等がある場合には、家族に出来るだけ多くの面会をお願いしている。職員は早く信頼関係が結べるよう、話かけを多くして不安を取り除く努力をしている。 | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | それぞれに役割を持ってもらい一緒に仕事をしている。洗濯もの干し、食器拭き、掃除、食事の準備、お茶配りなど一人ひとりが出来る事をしている。職員はありがたうと感謝の気持ちを伝えている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人から好きな事や家族等からは生活暦等を聞き、それらを踏まえて生活暦に関連した作業(草むしり、ボタンつけ、裾上げ、雑巾縫い等)をお願いしている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人や家族等から意見を聞き、取り上げ、それらを基にして全職員で話し合い、利用者本位の介護計画をケアマネジャーが作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 3ヶ月ごとの見直しがされている。モニタリングに基づき介護内容が記入されている。計画には具体的な内容が記入されていて、支援に誰が担当しても同じサービス内容が提供できるよう工夫されている。介護計画には本人、家族の意向が反映されている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 病院への送迎は原則家族送迎だが、家族が対応出来ない時は、施設で送迎を行っている。買い物等の支援もしている。美容院の利用を希望される人には美容院へ送り、連絡をもらおうと又迎えに行くなどの支援している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所の時に本人や家族等から意向を確認している。ホームのかかりつけ医にする場合は家族の同意を得ている。今は全員が以前のかかりつけ医になっている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 入居時に「重度化した場合における対応に関わる指針」が示されており家族も共有している。現実にはまだ経験していない。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 全職員は入室のときはノックをする、トイレ誘導時には他の人に悟られないように支援する等、申し送り等で対応を徹底している。又利用者の状況などは外部に話さないように職員に教育している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 食事の早い人、遅い人、風呂嫌いな人など、個々の個性を尊重し、その人に添ったペースで対応している。食事の時起きない人には時間をずらして支援したり、パジャマを脱がない人に無理に脱がせないで声かけなどの工夫をしたりしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|--|------|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 野菜の皮むき、米とぎ、食器並べ、箸、お絞りなど動ける人は職員と一緒にしている。配膳なども自分で持ってきたり、片付けている。不安定な人には支援をしている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 基本的には月曜日と金曜日の週に2回の入浴となっている。入浴拒否のある人には日にちをずらしたりして対応している。希望により2人で入浴する方もいる。 | ○ | 夏には週に3回の入浴やシャワー浴での対応があるが、入りたい時に入る体制ではない。今後の検討をお願いしたい。 |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | それぞれに合った役割を持っている。庭掃除の出来る人には箒で掃除をしてもらっている。洋服を作っていた人には縫い物をお願いしている。その他カラオケ、書道など、趣味を生かしての生活を楽しんでもらっている。又、誕生会をしたり、ドライブ、散歩、買い物に出かけるなどの支援をしている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 通年のドライブの他日常的に買い物、散歩などにも出掛けている。又、駐車場での花見など季節感を味わう事もある。近隣の名所には年間を通してドライブに出掛けている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 職員が2人体制のときは施錠を行っている。しかし3人体制のときは鍵をかけていない。鍵をかけることの本質的な圧迫感を職員は理解している。出来るだけ鍵をかけないケアを行いたいと考えており、施錠は常態化していない。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 緊急時のマニュアルが作成されている。毎年姉妹施設と共同で避難訓練を行っている。地域の人たちに協力を求める事を今後の課題として検討している。 | ○ | 緊急時には近隣の協力が欠かせない。地域の人を巻き込んだ訓練は職員の安心感にもつながるということで、現在検討中である。地域の協力体制の実現を期待したい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|----|---|---|------|---|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事のチェック票があり、食事が分るようになっている。メニューは利用者も参加して決めている。しかし水分のチェックがしていない。 | ○ | 水分の摂取量が大まかでもわかる記録があると体調の変化、また排泄などにも参考になると思われるのでチェック方法を工夫し、水分の欄を設けると良いと思われる。 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用部分の天井は高く、明かり取りから自然光が入り開放的な気分を味わう事が出来る。廊下の壁には入居者の書道、絵などが飾られている。ホールには観葉植物が置かれて、気持ちを和ませている。季節的にクリスマスの飾り付けがされている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 個人の持ち物としてテレビ、椅子、筆筒、鏡など持ち込まれている。個人の持ち込みは話し合いで持ってきてもらい、安心して過ごせるように配慮している。 | | |